

広島道床版取替工事を見学

広島県コンクリート診断士会

広島県コンクリート診断士会（十河茂幸会長）は9月26日と27日、「広島自動車道特定更新等」烏帽子第1橋（下り線）他1橋床版取替工事」の現場で会員を対象とした現場見学会を開いた。隔月開催

し、第40回に達した断例会の一環。会員23人が参加し、PC床版への取替工事などを間近で見学した。西日本高速道路では、高速道路の老朽化を受けて本体構造物の大規模更新・修繕事業に着手。特



PC床版の架設状況を見学する参加者

に橋梁では、凍結防止剤等によって劣化したRC床版をより耐久性の高いPC床版へ取替えることなどを主な整備メニューとし、2015年からの15年間で約1・8兆円（橋梁床版のみ、東・中・西日本高速道路の合計）を投じる計画を発表している。

現場見学の対象となった工事の内容は、広島自動車道の広島北JCT、広島北IC間で烏帽子第1橋（3径間連続非合成钣桁×2、橋長246・2m）と烏帽子第2橋（3径間連続非合成钣桁、橋長112m）の既設床版を撤去し、PC床版を架設。さらに防水工、舗装工、落橋防止装置の設置、支承の取替えなどを実施するというもの。

見学会に参加した米倉亜州夫氏特別顧問（米倉社会インフラ技術研究所）は、「われわれ技術者でもPC床版への取替工事を目の前で見られる機会はめったにない。私も勉強になったし、会員の皆さんにとっても良い勉強になったのでは」と話していた。

施工を担当する極東興和は、第1橋の工事を8月中旬までに完了させ、現在は第2橋の床版取替え工事に着手しており、進捗率は約72%。2020年4月8日の完成に向

けて鋭意工事が進められている。請負額は17億2800万円（税込）。

見学会では、同会の岡田繁之副会長（極東興和）と香井治現場代理人からNEXCOWest日本管内の更新事業の現状や今回の工事概要、注意事項などについての説明を行ったのち、現場に移動。